



「ふりかえり」をきっかけに学びの幅を広げる

～ 頑張る児童を認め、意欲を引き出す表彰式 ～

大形小学校では6月、10月、2月をラインズeライブラリの強化月間と定め、それぞれ1カ月の間に「ふりかえり」のメダルを全て集めた児童を表彰しています。今回は、4年生の授業と表彰式の様子をご紹介します。

強化月間、頑張った児童のための表彰式



▲ 児童生徒メニュー→ふりかえりから、あと何日、何回でメダルがもらえるかチェックできます。

メダルはラインズeライブラリで学習した「学習日数」「学習回数」「満点回数」ごとに3枚ずつ集められます。

自分が学びたい教材、自分に合った難易度の教材を選んで良いことから、勉強が得意かだけでなく、苦手であっても**頑張った人ならば認められる**ことがポイントです。

児童は隙間時間を見つけたり、家庭学習に積極的に取り入れたり、自分なりに工夫しながらメダルを集めています。

表彰式の様子



▲ 表彰状授与、そして皆で拍手！今月、メダルの数が届かなかった児童からは「いいなあ」の声が上がり、次の強化月間に向けて奮起します。

表彰式を行うようになってから、「メダルあと1枚で表彰だから、あと2回頑張らなきゃ！」と先生に経過を教えてくれる児童が増えたといいます。また、メダルを集めることが楽しく、強化月間でなくとも**自主的に学習するようになった**児童もいるそうです。

インタビュー 頑張った学びの結果を個別の支援にも

情報主任からの提案で始まったこの強化月間と表彰式は、ラインズeライブラリという学校全体で利用できる媒介があるからこそ、各担任に任せず、**教員全員が同じ気持ち**で盛り上げていけます。

児童にとって認められる場はうれしいもので、表彰式を大きな励みに、児童の学習への意欲は増しています。また、ラインズeライブラリは**豊富な問題から児童が自分の学びたいところを選べる**ので学びの幅が広がり、**繰り返し取り組める**ことから定着に役立っています。

これからも強化月間と表彰式は続けていきたいですし、頑張る児童の学習履歴を、教員が個別の支援に生かしていくことも、今後の展開として考えていきたいです。



校長
中嶋 好一 先生

表彰式が行われた4年生の授業で「確認テスト」を効果的に利用している様子を見せていただきました。

20分で、単元の復習と個々のおさらい



▲「たてる、かける…」と、筆算のしかたを追いながら考えます。

算数 4年：わり算の筆算

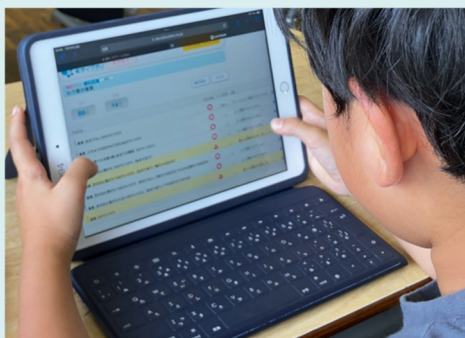
復習の単元から「確認テスト」が出題されると、「絶対、100点を取りたい！」と元気よく宣言し、児童はテストをスタート。

約20分の間にも、児童の進捗はそれぞれで、「解答解説を読んで見直しをしよう」「終わった人から次のドリルを始めて」と先生から声掛けがあります。皆、集中を途切れさせることなく、テストの結果を見たり、次の教材を選択してドリルに取り組んだり、おのおのペースで進めていました。

確認テストのポイント



▲ 確認テストの進捗、正答率などを先生の手元で確認できる



▲ テストを終えた児童から、結果を元に次にすることを自己選択できる



▲ 先生は、正答率などをもとに個別フォローができる

インタビュー

復習を楽しく、自信をつける時間に

単元を終えた後日、「確認テスト」を出題します。単元末テストとは別に実施していて、今回のように、筆算の順序を忘れると分からなくなってしまう単元があり、その復習と定着がねらいです。

ただ、復習では「分からない」「思い出せない」ために児童の気持ちがマイナスに向いてしまうこともあります。そこをタブレットを使う気軽さ、ラインズeライブラリで学習する楽しさで前向きに転換し、さらに**個々に表示される復習教材にしっかり取り組む**ことで、「できるようになった」という自信につなげます。



情報主任 4年担任
大郷 朔矢 先生

また「確認テスト」は結果を詳しく見られるので、「ここでミスがあったんだな」「この人はここが得意なんだな」と都度**発見があり、個別フォローをしやすい**と感じています。

ラインズeライブラリ活用 今後の展望

- 学習履歴をもとに、児童一人ひとりの理解度を把握し、「できている」「分からず困っている」などの実態に気づくためのツールにしていきたい
- 学習履歴をもとに、教員が授業展開を考えるツールにしていきたい

※本紙の情報は取材当時（2025年7月）のものです。